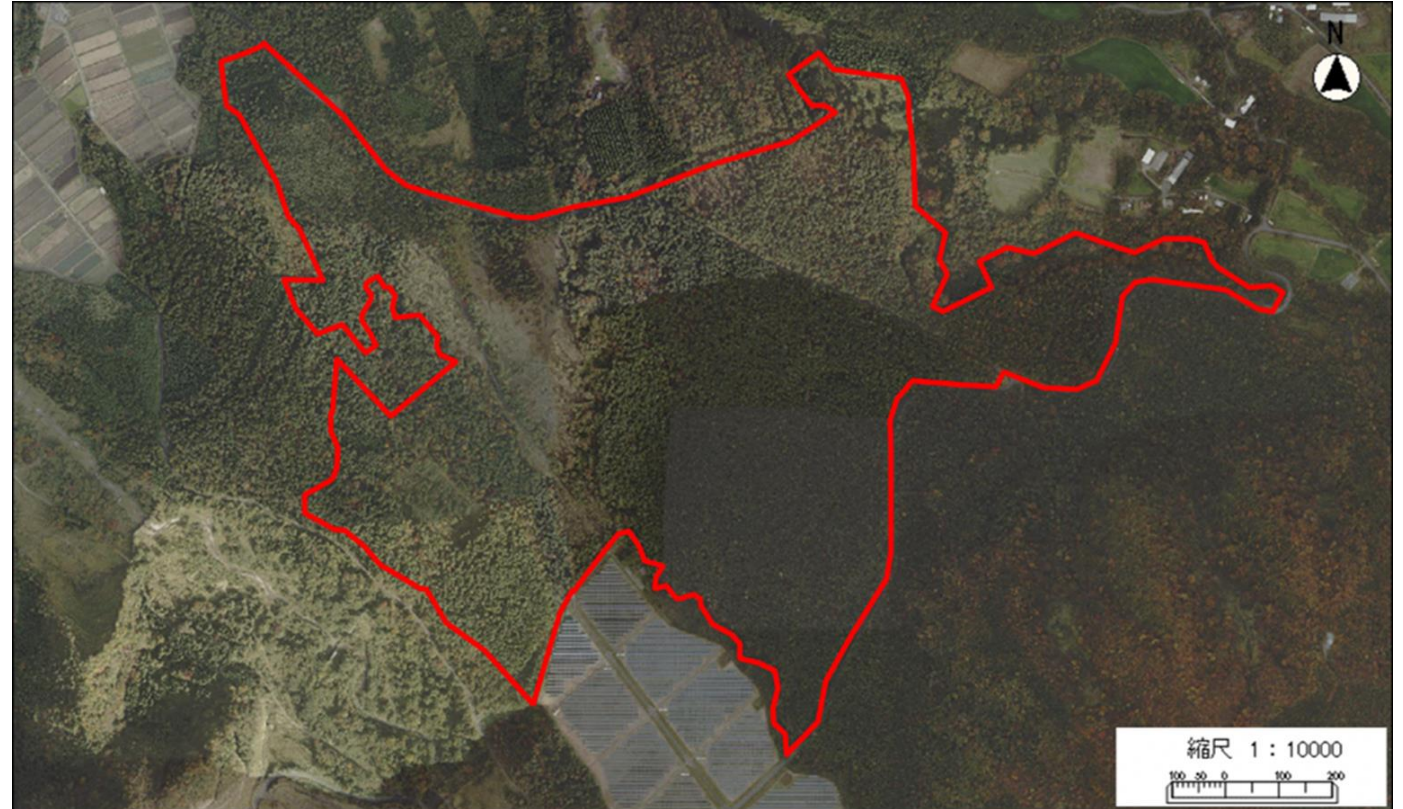


場所 鳥取県西伯郡大山町

面積 104ha

活動目的 オオタカの営巣地を守るため当該営巣地の存在する森を県が取得した経緯を踏まえ、鳥取県立大山オオタカの森として、希少な野生動植物が生息することのできる豊かな自然環境を貴重な財産として将来に継承し、環境立県を目指す象徴として保全することを目的とする。



サイト概要 鳥取県大山町に位置する104.5haのアカマツ林。大山山麓の北部の標高300～400mの場所にある。本サイトの象徴的な生物であるオオタカの生息・営巣が確認されているほか、その他希少な鳥類の生息も確認されている。

土地利用の 変遷

本サイトでは、1991年頃からリゾート開発が計画されていたが、1997年に計画地内にオオタカの営巣が確認された。一方、事業者の経営行き詰まりから開発計画が中止となり、営巣地を保全する必要性が生じたことから、営巣地を守ることを目的に、2001年に営巣地とその周辺の森林を県が取得。2004年に当該地を「鳥取県立大山オオタカの森」として保全にするための条例「鳥取県立大山オオタカの森の保全に関する条例」を制定。現在、希少な野生動植物が生息することのできる豊かな自然環境を保全するため県が管理している。

サイト周辺の 環境

本サイトは、中国山地の最高峰・大山の山麓の北部に広がるアカマツ林の中にある。この地域では1920年代から天然林を活用したアカマツ林の整備が進められマツ材の生産地となっている。また、本サイトの一部が大山隠岐国立公園の普通地域となっている。

アピール ポイント

オオタカの営巣林分の確保と長期的な森林経営の両立のため、2014年から林齢の平準化に配慮した更新伐(伐採率70%の強度間伐)によるアカマツ林の天然下種更新(若返り)に取り組んでいる。更新伐の実施地区では、実生によるアカマツが良好に生育するとともに、多様な鳥類が生息しオオタカの良好な餌場となっている。また、更新伐により伐採されたアカマツは、建材等として販売できおり収入源となっている。サイト内に整備された観察路や案内標識のリニューアルに取り組んでおり、野鳥観察会や自然観察会の実施環境を整えている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

大山北麓の標高300～400mに位置し、面積は104.5ha。50～75年生アカマツ林のほかスギ・ヒノキの人工林、落葉広葉樹林で構成される森林。

【主な植生】

アカマツ（50～75年生）

【確認された主な動植物など】

令和2年度 大山オオタカの森生態系調査において、サイト内で確認された鳥類は50種、哺乳類は10種で主な種は以下のとおり。

- 鳥類：イカル（学名：Eophona personata）
アカゲラ（学名：Dendrocopos major）
ホオジロ（学名：Emberiza cioides）
- 哺乳類：イノシシ（学名：Sus scrofa）
アナグマ（学名：Meles anakuma）
ニホンノウサギ（学名：Lepus brachyurus）



写真の説明：サイト内で撮影されたニホンノウサギ



写真の説明：サイト内で撮影されたアナグマ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

オオタカの営巣林分を確保しつつ林齢を平準化するため、アカマツ林の更新伐を実施しており（伐採したマツは、建築材等として毎年度約300m³販売）、パッチ状にある伐採跡地では、実生のアカマツが生育し、ヒヨドリ等のオオタカの好適餌種が多数確認されている。また、子どもたちによる野鳥の巣箱設置会や探鳥会、自然観察会など、環境教育の場として本サイトを活用している。

【主な植生】

アカマツ（50～75年生）

【確認された主な動植物など】

伐採跡地で確認された主なオオタカの好適餌種は以下のとおり。

ヒヨドリ（学名：Hypsipetes amaurotis）

キジバト（学名：Streptopelia orientalis）

イカル（学名：Eophona personata）

また、伐採跡地では実生のアカマツの他、約30種の植物が出現している。主な植物は以下のとおり。

ケチジミザサ（学名：Oplismenus undulatifolius）

ツタウルシ（学名：Toxicodendron orientale）

アカメガシワ（学名：Mallotus japonicus）

クマイチゴ（学名：Rubus crataegifolius）

オカトラノオ（学名：Lysimachia clethroides）

ススキ（学名：Miscanthus sinensis）



写真の説明：サイト内で実施されてる更新伐の様子



写真の説明：サイト内で開催された巣箱設置会の様子

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

オオタカ含め、複数の希少な猛禽類が本サイトを採餌等に利用している可能性が高い。
また、レッドデータブック（環境省、鳥取県）に掲載される希少な鳥類も生息が確認されている。

【確認された希少種】

令和2年度大山オオタカの森生態系調査委託業務では、オオタカ含む10種の環境省または鳥取県レッドデータブック（第3版2022）掲載種の鳥類が確認された。

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

本サイトには、オオタカの営巣に適したマツの大径木が多数あり、オオタカの繁殖行動がほぼ毎年確認されている。ただし、カラス等の天敵 によると考えられる妨害等によって、雛の巣立ちに至ることは多くはない。

また、過去にはオオタカ以外の希少な鳥類類の営巣が確認されている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

対象となる動物種：オオタカ（学名：Accipiter gentilis）

生活史の内容：

オオタカの繁殖状況について、過去に日本野鳥の会鳥取県支部の会員による調査がされている。



写真の説明：サイト内のアカマツに営巣するオオタカ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <p>○サイト全域を対象に、1～1.5ha程度の更新伐を毎年実施し、約60年を1サイクルとして、林齢構成の平準化を図ることで、オオタカの生育環境の保全と森林経営の両立を推進する。</p> <p>○更新伐による伐採箇所において、実生のアカマツの成長を促進するため、下刈り・除伐を実施するとともに、マツクイムシの被害木の伐倒駆除を実施する。</p> <p>＜事業概要(R5年度)></p> <p>実施時期：更新伐11月、下刈り7～8月、除伐11月(R6実施予定)</p> <p>事業内容：更新伐1.15ha、下刈り9.25ha、除伐1.57ha(R6実施予定)</p> <p>※除伐はR6年度に実施予定。</p> <p>○自然観察会や森林整備に利用するため、今年度に観察路整備を実施するとともに、2024年度に広場と標識の整備を実施する。</p> <p>＜事業概要(R5年度)></p> <p>事業期間：9月～11月末まで</p> <p>事業内容：観察路（延長1,700m、幅員3.5m）、歩道（延長315m、幅員2m）</p> <p>○観察路の維持管理(除草作業、7～8月頃)を適切に行い、野鳥観察会や自然観察会の実施環境を整備する。</p> <p>＜事業概要(R5年度)></p> <p>事業時期：3月頃(R6年度は3回実施(5月、10～11月、3月)予定)</p> <p>事業内容：整備した観察路で観察会を実施し野鳥等を育む森林空間と県民が触れ合う場を創出</p>	<p>【モニタリング対象】</p> <p>①野鳥の生息分布調査（サイト内に生息する鳥類）</p> <p>②生態系調査（サイト内に生息・生育する野生動植物、オオタカの繁殖状況、アカマツの更新状況の評価）</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>①、②共通 サイト全域</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>①スポットセンサス</p> <p>②スポットセンサス、カメラトラップ法、毎木調査等</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】</p> <p>①年4回、隔年で実施（5～7月に2回、10～11月に2回）</p> <p>②2025年実施予定で、必要に応じて随時実施（過去には2003年、2011年、2020年に実施）</p> <p>【モニタリング実施体制】</p> <p>①野鳥の会鳥取県支部への委託</p> <p>②鳥取大学、野鳥の会鳥取県支部への委託</p>